



「人が輝く元気で住みよい いばらき」づくりにむけて ～新年のご挨拶～

茨城県知事
茨城県統計協会総裁

橋 本 昌

あけましておめでとうございます。

昨年は、大手企業の新工場の相次ぐ操業開始や、つくばエクスプレス沿線のまちづくりの進展、「ねりんピック茨城2007」の開催など、元気ないばらきの姿を全国にアピールすることができました。

今年は、北関東自動車道が桜川筑西ICまで開通する予定であるほか、茨城空港も平成21年度末の開港に向けて整備が一段と進んでまいります。また、世界最先端の陽子加速器「J-PARC」が稼働する予定であり、科学技術創造立国の一翼を担う本県の役割がますます高まってまいります。

このような産業基盤の整備や税の優遇措置などをPRし、企業誘致に一層力を入れてまいりますとともに、科学技術を活かした産業振興、中小企業の育成、茨城農業改革の推進など、競争力のある産業大県づくりを進めてまいります。

また、全国的な課題である医師確保対策に取り組んでまいりますとともに、少子化対策といたしまして、放課後の子どもの居場所づくりや「子育て家庭優待制度」の拡充など、子育てしやすい環境づくりに努めてまいります。さらに、健康長寿社会の実現に向け、高齢者の健康づくり・生きがいづくりを推進してまいります。

同時に、元気ないばらきづくりの基本は「人づくり」にありますことから、確かな学力と豊かな人間性をもった子どもたちの育成に力を入れてまいりますとともに、11月には「国民文化祭いばらき2008」を開催いたします。

なお、森林整備や湖沼の水質浄化などを強力に推進するため、森林湖沼環境税の導入に向けて準備を進めているところでありますが、何とぞ皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

現在、社会・経済が大きな変革期にある中、地域間競争を勝ち抜き、21世紀を茨城の時代としていくためには、正確な現状認識と的確な将来予測が不可欠であり、その基礎資料となる統計の果たす役割はますます重要なものとなってまいります。

県といたしましては、迅速かつ正確な統計情報の収集に努めるとともに、インターネットなどの各種メディアを活用して分かりやすく利便性の高い統計情報の提供に一層努めているところでございます。

皆様方には、統計の社会的意義と使命をご理解いただき、統計調査へのなお一層のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

今年も県民の皆様と手を携えながら、全力で「人が輝く元気で住みよいいばらき」づくりに取り組んでまいります。

皆様のご健勝、ご活躍をお祈りいたしまして、新年のあいさつといたします。

茨城県民の時間の使い方について

～社会生活基本調査結果から長期的傾向を探る～

茨城県企画部統計課 人口労働グループ **高星昌記**

平成18年10月に第7回目の社会生活基本調査が全国約8万世帯を対象に実施されこのほど総務省統計局から調査結果が公表されました。そこで昭和61年以降の調査結果を用いて過去20年間の茨城県民の時間の使い方の変化についてその傾向を探ってみました。

なお、以下の記述では、15歳以上の人の1週間を平均した1日当たりの時間を使用しています。

□ 社会生活基本調査とは

国民の生活時間の配分及び自由時間等における主な活動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることを目的とし、昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施している。

調査対象者は、全国の世帯から無作為に選定された約8万世帯(本県：約1,500世帯)に住む10歳以上の世帯員約18万人(本県：約4,000人)

□ 調査の内容

生活時間の配分に関しては、調査期間内の連続する2日間について15分間隔で行動の種類を調査し、自由時間等における主な活動に関しては、「インターネットの利用」、「学習・研究」、「スポーツ」、「趣味・娯楽」、「ボランティア活動」及び「旅行・行楽」について、過去1年間の活動状況をそれぞれの種類別に「行ったか否か」、また、行った場合には、1年間の活動の「頻度」や「目的」、「方法」、「共にした人」などを調査している。

1 2次活動は減少、3次活動は増加

人々の1日の活動を1次活動(睡眠、食事などの生理的活動)、2次活動(仕事、家事などの義務的活動)、3次活動(趣味、スポーツなどの余暇活動)に分けそれぞれの活動に費やした時間について昭和61年と平成18年を比較してみると、1次活動は全国、茨城とも10分増加、2次活動は全国が44分減少、茨城が32分減少、3次活動は全国が34分増加、茨城が22分増加となっており、2次活動は減少し3次活動は増加している。さらに、昭和61年以降の推移をみると2次活動は全国、茨城とも平成13年までは減少傾向であったが平成18年では増加に転じ、その一方で3次活動は全国、茨城とも平成13年までは増加傾向であったが平成18年では減少に転じている。(表1)

表1 行動の種類別生活時間の推移(昭和61年～平成18年) ー全国、茨城県 (時間、分)

	全 国			茨 城 県		
	1次活動	2次活動	3次活動	1次活動	2次活動	3次活動
昭和61年	10.25	7.48	5.47	10.31	7.34	5.55
平成3年	10.25	7.39	5.56	10.26	7.36	5.58
平成8年	10.32	7.18	6.09	10.42	7.10	6.07
平成13年	10.34	7.00	6.26	10.41	6.58	6.21
平成18年	10.35	7.04	6.21	10.41	7.02	6.17
18年-61年	0.10	-0.44	0.34	0.10	-0.32	0.22

2 男性より女性の変化が大きい

茨城県の男女の生活時間について昭和61年と平成18年を比較してみると、1次活動は男性の1分増

加に対し女性は18分増加している。2次活動は男性の14分減少に対し女性は49分の減少で女性の減少が大きい。3次活動は男性の14分の増加に対し女性は31分の増加となっている。昭和61年以降の推移をみると1次活動では平成13年を除き女性が男性より多く、2次活動では平成13年までは女性が男性より多かったが平成18年では男性が女性を上回った。3次活動では一貫して男性が女性を上回っている。(表2)

表2 男女、行動の種類別生活時間の推移(昭和61年～平成18年) 一茨城県 (時間、分)

	男			女		
	1次活動	2次活動	3次活動	1次活動	2次活動	3次活動
昭和61年	10.30	7.20	6.09	10.33	7.46	5.41
平成3年	10.20	7.22	6.18	10.32	7.49	5.39
平成8年	10.40	7.07	6.13	10.45	7.14	6.01
平成13年	10.42	6.39	6.39	10.40	7.16	6.03
平成18年	10.31	7.06	6.23	10.51	6.57	6.12
18年-61年	0.01	-0.14	0.14	0.18	-0.49	0.31

3 睡眠時間は男性が女性より多いが減少傾向

1次活動の大半を占める睡眠時間について、昭和61年と平成18年を比較してみると全国と茨城のいずれも男女とも減少しているが、茨城の男性の減少が22分と大きい。昭和61年以降の男女の差の推移をみると全国、茨城とも一貫して男性が女性より多くなっている。(表3)

表3 男女、睡眠時間の推移(昭和61年～平成18年) 一全国、茨城県 (時、分)

	全 国		茨 城 県		男 - 女	
	男	女	男	女	全 国	茨 城
昭和61年	7.56	7.39	8.07	7.44	0.17	0.23
平成3年	7.50	7.34	7.55	7.38	0.16	0.17
平成8年	7.52	7.36	8.02	7.41	0.16	0.21
平成13年	7.49	7.35	7.57	7.34	0.14	0.23
平成18年	7.47	7.32	7.45	7.38	0.15	0.07
18年-61年	-0.09	-0.07	-0.22	-0.06		

茨城県について男女別年齢階級別に平成13年から18年の増減をみると、男性の総数で12分の減少に対し女性は4分の増加となっている。年齢階級別にみると男性ではすべての年齢階級で減少しており、女性では主に45歳未満で増加、45歳以上で減少している。(表4)

表4 男女、年齢階級別睡眠時間(平成13年、平成18年) 一茨城県 (時間、分)

	総 数			男			女			男-女
	平成13年	平成18年	18年-13年	平成13年	平成18年	18年-13年	平成13年	平成18年	18年-13年	平成18年
総 数	7.46	7.41	-0.05	7.57	7.45	-0.12	7.34	7.38	0.04	0.07
15～24歳	7.53	7.43	-0.10	8.07	7.48	-0.19	7.40	7.39	-0.01	0.09
25～34歳	7.33	7.34	0.01	7.44	7.34	-0.10	7.21	7.34	0.13	0.00
35～44歳	7.19	7.19	0.00	7.38	7.27	-0.11	7.00	7.10	0.10	0.17
45～54歳	7.16	7.08	-0.08	7.28	7.23	-0.05	7.03	6.53	-0.10	0.30
55～64歳	7.45	7.32	-0.13	7.54	7.41	-0.13	7.35	7.24	-0.11	0.17
65～74歳	8.18	7.59	-0.19	8.39	8.05	-0.34	8.00	7.53	-0.07	0.12
75歳以上	9.13	9.10	-0.03	9.27	8.58	-0.29	9.04	9.17	0.13	-0.19

4 仕事時間は男性より女性の減少が大きい

2次活動時間の大半を占める仕事時間について昭和61年と平成18年を比較してみると、男性では全国が24分の減少に対し茨城は5分の減少に止まっているが全国との差はマイナス4分でほぼ全国レベルである。女性は全国が39分減少に対し茨城は41分減少で同程度の減少であるが全国との差はマイナス11分で男性よりも大きい。昭和61年以降の推移をみると、男性では全国、茨城とも平成13年までは減少傾向であったが平成18年には増加に転じた。女性では、全国で平成13年までは減少傾向であったが平成18年には増加に転じた。茨城では一貫して減少傾向を示している。(表5)

表5 男女、有業者の仕事時間の推移（昭和61年～平成18年）—全国、茨城県 (時.分)

	全 国		茨 城 県		茨城-全国	
	男	女	男	女	男	女
昭和61年	7.24	5.39	7.01	5.30	-0.23	-0.09
平成3年	7.10	5.24	7.02	5.27	-0.08	0.03
平成8年	7.00	5.11	6.53	5.13	-0.07	0.02
平成13年	6.48	4.51	6.22	4.58	-0.26	0.07
平成18年	7.00	5.00	6.56	4.49	-0.04	-0.11
18年-61年	-0.24	-0.39	-0.05	-0.41		

茨城県について男女別年齢階級別に平成13年から平成18年の増減をみると、男性の総数で34分の増加に対し女性は9分の減少となっている。年齢階級別にみると男性では「15～24歳」以外のすべての年齢階級で増加しており、女性では15歳から44歳の階級で減少し、45歳以上の階級では増加している。

(表6)

表6 男女、年齢階級別仕事時間（平成13年、平成18年）—茨城県・有業者 (時間.分)

	総 数			男			女			男女差
	平成13年	平成18年	18年-13年	平成13年	平成18年	18年-13年	平成13年	平成18年	18年-13年	平成18年
総 数	5.47	6.04	0.17	6.22	6.56	0.34	4.58	4.49	-0.09	2.07
15～24歳	5.33	5.06	-0.27	5.26	5.22	-0.04	5.42	4.46	-0.56	0.36
25～34歳	6.14	6.38	0.24	6.54	7.45	0.51	5.18	4.56	-0.22	2.49
35～44歳	6.08	6.08	0.00	7.08	7.16	0.08	4.36	4.28	-0.08	2.48
45～54歳	6.12	6.35	0.23	7.00	7.29	0.29	5.12	5.21	0.09	2.08
55～64歳	5.14	6.01	0.47	5.46	6.41	0.55	4.19	4.53	0.34	1.48
65～74歳	4.03	5.10	1.07	4.06	5.46	1.40	3.54	4.19	0.25	1.27
75歳以上	2.38	3.52	1.14	2.02	3.58	1.56	3.08	3.50	0.42	0.08

5 3次活動時間では「趣味・娯楽」の時間が増加

茨城県の3次活動時間の内訳をみると、平成18年では「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」が2時間24分で最も多く、次いで「休養・くつろぎ」が1時間26分、「趣味・娯楽」が42分となっておりこの順位はこの20年間変わっていない。昭和61年と平成18年を比較してみると、「趣味・娯楽」と「移動（通勤・通学を除く）」が11分の増加で最も多く、他方減少した活動では「交際・付き合い」が6分の減少で最も多い。「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」と「休養・くつろぎ」を合わせた休養等自由時間活動は8分の減少であるのに対し「学習・研究（学業以外）」、「趣味・娯楽」,「スポーツ」,「ボランティア活動・社会参加活動」を合わせた積極的自由時間活動は20分の増加となっている。(表7)

表7 3次活動時間の推移（昭和61年～平成18年）—茨城県

(時間. 分)

	昭和61年	平成3年	平成8年	平成13年	平成18年	18年-61年
3次活動	5.55	5.58	6.07	6.21	6.17	0.22
移動（通勤・通学を除く）	0.20	0.22	0.24	0.33	0.31	0.11
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2.28	2.25	2.37	2.37	2.24	-0.04
休養・くつろぎ	1.30	1.24	1.15	1.19	1.26	-0.04
学習・研究（学業以外）	0.10	0.12	0.09	0.10	0.11	0.01
趣味・娯楽	0.31	0.35	0.31	0.37	0.42	0.11
スポーツ	0.09	0.09	0.10	0.12	0.13	0.04
ボランティア活動・社会参加活動	0.01	0.04	0.03	0.04	0.05	0.04
交際・付き合い	0.26	0.29	0.30	0.23	0.20	-0.06
受診・療養	0.10	0.06	0.07	0.07	0.08	-0.02
その他	0.10	0.12	0.22	0.19	0.17	0.07
（再掲）						0.00
休養等自由時間活動 1)	3.58	3.49	3.52	3.56	3.50	-0.08
積極的自由時間活動 2)	0.51	1.00	0.53	1.03	1.11	0.20

1) テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ

2) 学習・研究（学業以外）、趣味・娯楽、スポーツ及びボランティア活動・社会参加活動

積極的自由時間活動について男女別年齢階級別に平成13年から平成18年の増減をみると、男性が6分の増加に対し女性は10分の増加で女性が男性を上回っている。特に女性の「趣味・娯楽」は9分の増加を示している。年齢階級別では、男性が35歳から54歳の階級で減少、女性は「35歳～44歳」及び「75歳以上」で減少した以外はすべての年齢階級で増加している。（表8）

表8 男女、年齢階級別積極的自由時間活動の時間（平成13年、18年）—茨城県

(時間. 分)

	総 数			男			女			男女差
	平成13年	平成18年	18年-13年	平成13年	平成18年	18年-13年	平成13年	平成18年	18年-13年	平成18年
積極的自由時間活動	1.03	1.11	0.08	1.15	1.21	0.06	0.52	1.02	0.10	0.19
学習・研究（学業以外）	0.10	0.11	0.01	0.11	0.12	0.01	0.08	0.10	0.02	0.02
趣味・娯楽	0.37	0.42	0.05	0.45	0.47	0.02	0.29	0.38	0.09	0.09
スポーツ	0.12	0.13	0.01	0.15	0.17	0.02	0.10	0.10	0.00	0.07
ボランティア活動・社会参加活動	0.04	0.05	0.01	0.04	0.05	0.01	0.05	0.04	-0.01	0.01
15～24歳	1.30	1.53	0.23	1.46	2.19	0.33	1.12	1.27	0.15	0.52
25～34歳	0.57	1.09	0.12	1.15	1.19	0.04	0.36	0.58	0.22	0.21
35～44歳	0.57	0.51	-0.06	1.07	0.56	-0.11	0.48	0.45	-0.03	0.11
45～54歳	0.52	0.56	0.04	0.57	0.53	-0.04	0.50	0.59	0.09	-0.06
55～64歳	1.02	1.12	0.10	1.04	1.13	0.09	1.00	1.10	0.10	0.03
65～74歳	1.13	1.29	0.16	1.37	1.44	0.07	0.52	1.14	0.22	0.30
75歳以上	0.50	0.50	0.00	1.05	1.08	0.03	0.41	0.38	-0.03	0.30